

TTA レポート (NO.107)

2016年度を迎え、総会も終え、新体制で全員一丸となって、2022年の栃木国体を目指し、一步一步目標に向い邁進していきたいと思えます。

1、2016年度の事業方針(2015年度実績)

.....2015年度の実績と反省.....

- 1、TTAの収支面の更なる透明性、健全化及び情報共有の推進。スピードのある決断と実践
- 2、参加し易い土壌作りのため、大会実施方法の日々見直しと改善 ダブルスの参加者増を
- 3、「第10回とちぎオープン」の更なる定着化。高妻先生・笠原先生によるメンタルヘルスのジュニア教育の徹底
- 4、ジュニア育成強化基金40万円を計上し、更なる推進。
- 5、JTA後援の楽天キッズテニス支援プログラム「テニスPLAY+STAY」のレッド・オレンジ・グリーン ボールによる推進。
各地区協会との連携による実施
- 6、2015年度事業推進と予算に感謝。

.....2016年度の事業方針.....

【温暖化防止チーム・マイナス6%運動】エコ活動認定団体表彰(スポレクエコとちぎ2011にて)

TTAとして、「自分のゴミ+One運動+エコキャップ」を実施します。自分のゴミと周りに落ちているゴミの持ち帰り運動の推進

- 1、TTAの収支面の更なる透明性、健全化及び情報共有の推進。スピードのある決断と実践
- 2、参加し易い土壌作りのため、大会実施方法の日々見直しと改善 ダブルスの参加者増を
- 3、TTA組織体制の充実と共に、2016年度予算の必達、一丸となって更なる努力を。
- 4、障害者スポーツの積極的支援(ブラインドテニスダブルス大会、聴覚障害者スポーツテニス大会(2016/6/25～26))
- 5、2022年栃木国体目指し、次代を担うジュニアの強化の実現、国体強化費補助金の有効活用
SCUの養成計画の策定、テニス国体会場地の整備、平成28年度強化事業等に係る各種調査の推進
- 6、テニスP&Sの地区協会中心の推進 JTAの補助活用、TTAのバックアップ
- 7、栃木県クラブ対抗戦の推進(KTA4県対抗交流戦)

2、5/3(火) TTA総会 (15:00～ホテルニューイタヤ)

2、1 2022年栃木国体

- 1)SCUの養成計画の策定。鈴木審判委員長にて、2020年までの対象者、人数、費用等を具体化。
- 2)主な内容 ①競技団体スキルアップ事業実施 ②国体対策ジュニア育成強化事業実施
③競技力ランクアップ支援事業実施 ④国体対策指導者養成事業実施 ⑤アドバイザーコーチ事業実施
⑥スポーツ医・科学サポート事業実施 をジュニア中心に具体的実施。

2、2 テニスP&S

過年度の実績について

◆平成25年度(計1回)

I 鹿沼市 平成26年3月22日(土)am フォレストアリーナ キッズ 60人

◆平成26年度(計4回) (Iのみテニスの日の事業)

I 宇都宮市 平成26年9月23日(火・祝)終日 屋板運動場 キッズ・親子79人

II 足利市 平成26年10月11日(土)am 総合運動場 キッズ 74人

III 那須塩原市 平成27年2月11日(土)am 黒磯体育館 キッズ 18人

IV 栃木市 平成27年3月28日(土)am 総合運動公園体育館 キッズ 29人 (全計260人)

◆平成27年度(計4回実施)---宇都宮市、佐野市、小山市、那須塩原市

○平成28年度(計4回予定)---JTAでも市区町村に展開に予算措置。

2、3 国体会場地の日体協-JTAの視察 2016. 12. 20に第一回

テニスコートのJTA基準との合致、ナイター設備の規模、バリアフリーの具体化、更衣室・トイレ・駐車場・観客席の設置。

3、3/24 JTA評議員会 評議員会13-15後、味の素NTC見学15:00-16:20 懇親会16:30-17:30、質疑応答 井村より

①2020年にオリンピックとパラリンピックですが、自分がこう障害者になり、バリアフリーがきめ細かく配慮されているか痛切に感じます。栃木県でも積極的に聴覚障害者やブラインドテニスの大会の審判をするんですが、障害者の立場に立ち多々心配りが要と思えます。

②2点目ですが、「テニスP&Sで、栃木県の傘下には12地区協会があり、発掘・普及をより定着化するには時間がかかります。一方、2022年には栃木国体もあり、次代を担うジュニアの育成・強化のも多くの金がかかります。JTAからのP&Sの補助は大変助かるので今後とも是非継続していただきたい。JTAも全国で大変だが、少子化の時代に宜しく願います。

以上

TTA レポート (NO.108)

2016年度を迎え、総会も終え、新体制で全員一丸となって、2022年の栃木国体を目指し、一步一步目標に向い邁進していきたいと思ひます。

1、2016年関ブロ(山梨県にて)

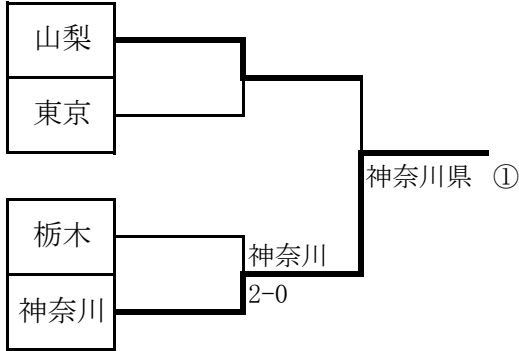
1.1 栃木県予選

日 時	平成28年5月28日(土)、5月29日(日)	
会 場	栃木県総合運動公園	
結 果	成年男子(関ブロで予選)	成年女子(本国体に直接)
一位	油布 将也	吉田 麻美
二位	玉腰 菊	諏訪 仁美
三位	牧野圭一	齋藤 美幸
四位	鈴木 佳	加藤 美怜

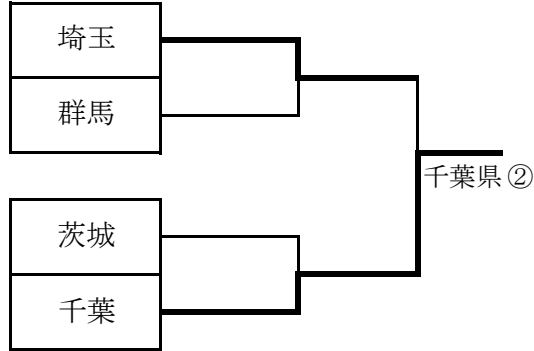
男子上位2名の選手は、8月6日、7日に山梨県甲府市で行われる関東ブロック大会に出場、
女子上位2名の選手は、10月1日～5日岩手県盛岡市で行われる本国体に出場。

1.2 山梨県での関ブロは、今年5/8県で競い、炎天下で厳しい各都県での激戦だった。

Aブロック



Bブロック



- ③通過 山梨県
- ⑤通過 栃木県
- ④通過 東京都

埼玉県の棄権----- 他人事ではないが、熱中症は怖いですね。

2、7/23(土)18ー サミット会議(年一回の副理事長以上の会議)

①国体調査の最終版---県体協とJTA(ジュニア人数) H28.6.30現在 県教育委員会 スポーツ振興課

	小学生	中学生	高校生	社会人(大学生含む)	選手計	審判員
男子	44	65	1,050	1,760	2,919	32
女子	18	58	390	865	1,331	43
選手計	62	123	1,440	2,625	4,250	75

JTA等、各種調査のベースに使用する。

②県体協と県教育費補助の経緯。使い道

2022年栃木国体目指し、県体協の他に、次代を担うジュニアの開拓・普及・育成・強化のため、県教育委員会から補助を支給。長期的計画踏まえ有効活用を！！今年度から役員養成事業として主に審判養成のための補助金が制定されたので、岩手国体を吉井副理事長、鈴木審判委員長、鈴木総務経理副委員長で視察してくる。その際、審判台の高さを見てくる。国際基準では180センチメートルだが、国体ではどう対応しているのか。また、オフィシャルボードも調査してくる。

③テニスP&Sの各県の主な取り組み

JTAの中で指導員を認定しているが、競技の指導員とはレベルの差があり同等に扱って良いのか議論になっている。県内では各市協会で取り組んでおり、補助金を前もって支出して事業後に精算すれば各市協会の負担は少なくて済むので、配分の仕方を検討する。

④ベテラン女子の増対策、ダブルスの活性化

現状では決定的な対策はないが、女子連の更なる活性化を目指し、TTAへの要望等をヒアリングする。

⑤実業団関東ビジネスパル

7月16、17日に開催、開会式には上野会長、横松副会長臨席あり、懇親会には石下秘書、横松副会長臨席。
栃木県は女子栃木県教職員チームが全国大会(広島)出場。

以上